

異常な時代

2021. 2. 25

「非常の時代には非常な生き方が必要になる。特に人を導く者は自ら非常の生き方を示さなければならない。それを支えるのは勇気以外ない。ああ勇なるかな勇なるかな」

この言葉は、以前紹介した江戸時代の名君、名改革者といわれた米沢藩主上杉治憲（鷹山）が初入国するに当たって、少年時から生き方の指導をしてきた学者細井平洲が献じた励ましの言葉である。

現在はまさに非常の時代である。いや異常の時代といった方がいいかもしれない。となると、人間は異常な生き方が求められるのか。皆クレージーになれということか。

細井平洲が上杉鷹山に告げたのはそういうことではない。今以上に人の道を守り、弱者のために仁と徳を發揮せよ、ということである。今より二倍三倍の努力をしろ、というのである。それには勇気が要る。自分を奮い立てる非常な勇気が必要となる。

そのために、まず「今のくらしぶりを基準にするな」という戒めがある。非常な時代を今のくらしと比べれば、すべてが不満足で、不平不満が多くなる。この不平不満を逆流させて、新しいパワーにしてください、マイナスをプラスに換えてくださいというのが平洲の願いである。

歴史のサイクルを見てみる。すると、60年くらいのサイクルが見えてくる。明治維新から振り返ると、1870年から1900年、これは江戸時代の常識が破壊された30年である。次に1900年から1930年、これは日露戦争から第一次世界大戦があり、後進国の日本が先進国に追いついた繁栄の30年である。

ところが、繁栄の後に何が起こったかという、たぶん驕りや傲慢があって、第二次世界大戦で悉く破壊され、社会の常識がリセットされた。これが1930年から1960年。その悲劇から立ち上がり、高度経済成長やバブル経済を生んだ1960年から1990年は繁栄の時代。

そして、バブルが弾けて失われた何十年と言われているが、この破壊と繁栄のサイクルで見ると、2020年から新しい繁栄の時代が始まることになる。ただし、直近の30年ではいろいろな変化はあったものの、破壊の部分が足りないように思えた。そんな矢先に、新型コロナウイルスの世界的大流行が起こったわけである。

これまで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなった。海外渡航が自由にできなくなるなど考えもしなかった。その半面、オンライン会議ツールを使えば、世界中の人といつでもどこでもすぐに繋がる。

後でわかることだが、2020年は大きな転換期と言えるだろう。こういった異常な時代だからこそ、細井平洲や上杉鷹山、二宮尊徳、渋沢栄一などから学ぶべきである。そして、人間の根を養うことが重要である。